

2018年度 事業計画

| | |
|-------------------|---------|
| ■ こばと会本部 | P 2 |
| ■ こばと保育園 | P 3~4 |
| ■ こばとっこ保育園 | P 5 |
| ■ さくら保育園 | P 6 |
| ■ さくらんぼ保育園 | P 7 |
| ■ いのこの里 | P 8~10 |
| ■ グループホームたんぽぽ | P 11~12 |
| ■ 亥の子谷デイサービスセンター | P 13 |
| ■ さくら苑 | P 14 |
| ■ 吹田市山田地域包括支援センター | P 15 |
| ■ 南保育園 | P 16 |

社会福祉法人こばと会

2018年3月22日

こばと会本部

2017年度はこばと会50周年にむけた記念の前年度とし、全職員が50年の歴史を共有することを意識的に取り組みました。こばと会の歴史の重みを一人ひとりが自覚し、新年度を迎えることができたと思います。法人50年の歴史をまとめた冊子も完成し、2018年5月20日に祝賀会を実施します。

■ 理事会・評議員会開催日と主な内容

【理事会】

2018年6月5日（火） 2017年度事業実績および決算

11月8日（木） 2018年度補正予算

2019年3月8日（金） 2019年度事業計画および予算

【評議員会】

2018年6月21日（木） 2017年度事業実績および決算

11月22日（木） 2018年度補正予算

2019年3月22日（金） 2019年度事業計画および予算

■ 法人運営について

- ・人材確保が困難な情勢の中、職員の労働環境を改善させます。
- ・南保育園の1年目の引き継ぎ運営が円滑に行えるよう、法人内で責任体制を整え、見守ります。
- ・吹田保育園の職員確保、また、人事について、適切に配置します。
- ・新規事業開設にあたっては、丁寧な指導を行います。
- ・吹田市亥の子谷地域保健福祉センターの受託にむけて準備を行います。
- ・「こばと会相談センター」を活用し、法人本部の機能を高めます。また、各種研修、会議等に活用します。
- ・吹田市山田地域包括支援センターの職員体制を強化するとともに、移転について検討します。
- ・大学や保育・介護の養成校と連携を強化し、職員採用をすすめます。
- ・職員が働き続けられる環境を整えるため、一人ひとりの職員の声に耳を傾けます。
- ・職員が研修に参加しやすい条件を整え、質の向上をめざし、仕事に喜びがもてることを目指します。
- ・介護保険制度や保育指針など、制度の変化が職員に伝わるよう支援します。
- ・各事業所の生きた実践から学べる工夫を行います。

■ 施設間の連携及び支援

- ・法人一年歴を作成し、行事・学習会などの効率的運営・調整に努めます。
- ・施設長会議を定期開催し、事業の進捗や課題を共有し、法人方針の執行を行います。また、保育園長会議、介護管理職会議を開催し、種別ごとの課題について具体化します。
- ・事業所間の専門職の交流を通じ、専門性を高めるとともに、合理的な運営に努めます。
- ・事故、ヒヤリハット、苦情等を事業所間で共有し、事故防止に努めます。

■ 各種研修および行事

- ・運営協議会を開催し、各事業所の声を運営に反映させます。(2019年1月12日)
- ・法人人権研修を他法人と共同してすすめ、地域に公開します。(6月27日)
- ・永年勤続職員表彰を行います。(2019年1月5日)
- ・法人新年会(2019年1月5日)
- ・法人管理者研修(2018年8月26日)、新採用職員研修(2019年2月10日)
- ・会計担当者研修の実施

■ 地域・他機関とのとりくみ

- ・吹田市との懇談会をもち、制度改定での変化について理解を深めます。(7月下旬)。
- ・各地域の自治連合協議会をはじめ、地域住民の諸活動の中で必要な役割を果たします。

こばと保育園

待機児童対策で今年度も定員の弾力運用を行います。保育士の確保に努め、年度途中の入園も検討します。延長保育について市単費補助金が無くなり実費負担となつてからも、保護者負担増を軽減する為に徴収してこなかった午後6時からの30分間の延長保育料の徴収を開始します。

園舎建替から年数が経過し、経年劣化が出始めています。修繕計画を立て、修繕をすすめていきます。

■4月1日の入園状況 定員 120名 入園名予定 130名

0歳児：12名 1歳児：22名 2歳児：24名 3歳児：24名 4歳児：24名 5歳児：24名

■職員人事

入 職 1名（保育士） 退 職 なし
育 休 1名（保育士）

<地域に根ざして>

- ・子育て世代に限定せず、地域に貢献できる保育園として、地域住民の福祉ニーズを適切に掴み、対応していきます。
- ・育児教室に参加するまでの世帯を対象に新生児ママの会をボランティア（保健師）の支援も受けながら開催します。

<施設の安全と環境改善のために>

- ・重大事故を起こさない為に「ヒヤリ・ハット」報告を大切に、園全体でリスクマネジメントを行います。
- ・感染症予防と拡大を防ぐためのマニュアル充実と消毒の徹底を行い、園医、看護師による指導の下、正しい知識に基づく対応を行います。
- ・毎月実施する避難訓練について、年間計画に基づいて様々な場面を想定して行います。
- ・子どもの発達に応じた保育を提供します。

<保護者とともに>

- ・保護者との連携・保護者支援について、より丁寧に対応できるように創意工夫を行います。また、個別の相談がしやすい環境を整え、保護者が安心して相談や意見が言えるように工夫を行っていきます。
- ・三者運営会議を中心に、保護者会と丁寧に話し合える関係を大切にします。

<保育の質の向上のために>

- ・職員自身が実践と理論を結びつけることが出来るような実践報告を行う機会を設けます。外部研修、他園見学等に積極的に職員派遣をします。これらの研修は、こばと保育園職員のキャリアパスに位置付けます。
- ・1日の労働時間を30分長くし、公休日を12日増加させ、働きやすい職場づくりをすすめます。
- ・職員が働き続けていくことで、保育のやりがいを実感できるように、管理職と職員の面談の機会を大切にします。
- ・外部キャリアパス研修に職員派遣を行います。
- ・新保育所保育指針をどのように読み解き、保育を行っていくべきか学習の機会を設けます。

こぼとっこ保育園

開園後、初めて定員を満たしての保育となります。また、園長も交代し、新しい職員も迎えます。まずは、安心安全な保育を第一に、発達に応じた保育を提供します。

■4月1日の入園状況 定員 19名 入園名予定 19名
0歳児：3名 1歳児：7名 2歳児：9名

■職員人事

入 職 正規保育士1名 非常勤保育士2名
退 職 正規保育士2名

<地域に根ざして>

- ・昨年度より開始した一時あずかり事業についての周知をすすめ、利用者しやすくしていきます。
- ・子育て世代に限定せず、地域に貢献できる保育園として、地域住民の福祉ニーズを適切に掴み、対応していきます。

<施設の安全と環境改善のために>

- ・重大事故を起こさない為に「ヒヤリ・ハット」報告を大切に、園全体でリスクマネジメントを行います。
- ・感染症予防と拡大を防ぐためのマニュアル充実と消毒の徹底を行い、園医による指導の下、正しい知識に基づく対応を行います。
- ・毎月実施する避難訓練について、年間計画に基づいて様々な場面を想定して行います。
- ・こぼと保育園との連携を密に報告・相談・連絡を徹底します。

<保護者とともに>

- ・保護者との連携・保護者支援について、より丁寧に対応できるように創意工夫を行います。また、個別の相談がしやすい環境を整え、保護者が安心して相談や意見が言えるように工夫を行っていきます。
- ・転園希望の保護者の願いを受け止め、適切な助言を行います。

<保育の質の向上のために>

- ・職員自身が実践と理論を結びつけることが出来るような実践報告を行う機会を設けます。外部研修、他園見学等に積極的に職員派遣をします。これらの研修は、こぼとっこ保育園職員のキャリアパスに位置付けます。
- ・1日の労働時間を30分長くし、公休日を12日増加させ、働きやすい職場づくりをすすめます。
- ・職員が働き続けていくことで、保育のやりがいを実感できるように、管理職と職員の面談の機会を大切にします。
- ・外部キャリアパス研修に職員派遣を行います。
- ・新保育所保育指針をどのように読み解き、保育を行っていくべきか学習の機会を設けます。

さくら保育園

さくら保育園は15年を迎えました。4月より2名の南保育園への異動もあり、経験の浅い職員が多くなりますが、事故の無いようていねいに、子どもたちの発達に応じた保育を行います。また、経験者を含め丁寧な職員育成を行っていきます。

| | | |
|-------------|------------------|-------------------|
| ■ 4月1日の入園状況 | 定員 60名 | 入園予定 69名 |
| 0歳児 6名(6名) | 1歳児 12名(6名) | 2歳児 13名 (3名) |
| 3歳児 14名 | 4歳児 12名*発達支援利用2名 | 5歳児 12名 ()内は新入園児 |

■ 職員人事

| | | |
|----|-----|-----------|
| 入職 | 保育士 | 2名 |
| 退職 | 保育士 | 1名 |
| 異動 | 保育士 | 2名 (南保育園) |

<地域に根ざして>

○子育て支援センター事業

(育児教室；毎週1回 年齢別1歳児、2歳児グループ 後期0歳児グループ)

○地域開放事業 (こどもまつり、七夕、プール開放、運動会、クリスマス会、節分) 等

○地域活動事業 (世代間交流、異年齢交流、育児講座、ちびっこふれあい運動会)

○スマイルサポーター (3名) を中心に福祉の地域貢献に努めます。

<施設の安全と環境改善のために>

○職員の入れ替わりがある中、職員集団の発展に努めます

○ノロやロタ、インフルエンザ等の感染症予防に努めます

○毎月1回の避難訓練をはじめ、総合訓練を行い、非常災害時の備品を整え子どもの生命を守るよう努めます。

○子どもたちが事件・事故に巻き込まれないよう、ヒヤリハットを改めて見つめなおします。また、虐待から子どもを守るための子育て支援室、子ども家庭センター、小学校と連携を図ります

<保護者とともに>

○全国保育園団体合同研究集会in大阪を職員と保護者とともに成功させる

○三者運営員会を定期的に関き、保護者会と意思疎通をし、連携を図っていく

○アンケート調査を実施して保護者の要望を把握し、よりよい園運営に生かします

<保育の質の向上のために>

○保育所保育指針の改定により保育課程の見直しをする

○15年実践集を発行する

○職員の悩みを話し合い仕事にやりがいを持つようなカンファレンスを心がけます

○子どもたちが健やかな発達・成長が保障できるよう職員集団での学習を軸に実践し、研修に積極的に参加できる計画を組み、保育のやりがいを実感できる、働き続けられる明るい職場づくりを心がけます

○職員会議を充実したものになるように工夫していきます

さくらんぼ保育園

吹田市の民間移管を受け、4月からこぼと会南保育園が開園します。それに伴い職員の異動があり新入職員が増えますが、学びを大切にしながらも話合える職場づくりをしていきます。また子ども達や保護者が健やかに育ち安心して働ける保育園になるようより良い保育をめざします。

| | | |
|------------|---------|-------------------|
| ■4月1日の入園状況 | 定員 60名 | 入園予定 67名 |
| 0歳児：6名 | 1歳児：12名 | 2歳児 12名 |
| 3歳児：13名 | 4歳児：12名 | 5歳児：12名（発達支援利用1名） |

■職員人事

| | | |
|----|-------------|-------|
| 入職 | 保育士（2名） | 栄養士1名 |
| 退職 | 保育士（1名） | |
| 異動 | 保育士2名（南保育園） | 栄養士2名 |

<地域に根ざして>

- ・ 育児教室の取り組みや育児相談など、地域の子育て世代の支援に努めます。
- ・ 地域の会議や取りくみに積極的に参加し、地域の保育園としての役割を發揮していきます
- ・ さくら苑、その他の高齢者施設と世代間交流をしていきます
- ・ 卒園児を中心に子育てに悩む親の会「さくらんぼサロン」を開催していきます

<施設の安全と環境改善のために>

- ・ 災害時に俊敏に対応できるように、月々の避難訓練を工夫していきます
(さくら苑との合同避難訓練、地域の防災訓練に参加)
- ・ 園舎の危険個所のチェックシートに基づき担当者が定期的に点検をします
- ・ 照明をLED化していく修繕工事を実施していきます
- ・ 日々のヒヤリハットを報告を徹底し、大きな事故につながらないようにしてきます、

<保護者とともに>

- ・ 保護者支援について理解と協力が得られるように、より丁寧な対応をしていきます。
- ・ 「ご意見箱」を置き保護者の声を聞いていくようにします
- ・ 保護者へのアンケートをおこない、要望をくみとり必要に応じて検討していきます

<保育の質の向上のために>

- ・ 職員がやりがいをもって働き続けられるように、キャリアアップ、その他の研修をうけられるような体制づくりをします
- ・ 法人の理念と保育方針に基づいた保育を展開し、実践が理論に裏付けられた保育ができるよう、学習を重ねていきます
- ・ 土曜日の公休増に伴い、職員会議をより充実したものにできるよう工夫していきます
- ・ 副園長・主任・給食室などの施設交流をすすめていきます

いのこの里

□ 社会福祉法人こばと会 50 周年

今年、こばと会が 50 周年を迎える年度となります。今日までこばと会を支えて頂いた多くの皆さんに感謝するとともに、より一層信頼を寄せて頂けるよう、職員みんなで力を合わせて、利用者の尊厳や生活を大切にされたケアを探求し、地域の高齢者福祉の課題に向き合っていきます。

この 4 月から介護保険の見直しが行われます。その内容は、「地域包括ケアシステムの深化・推進」と「介護保険制度の持続可能性の確保」という 2 つの柱において、高齢者の自立支援と重度化防止、地域共生社会の実現を図ることが目標とされています。報酬改定においては、新たな加算が創設され、その対応を具体的に実施していくことが求められています。

「介護の社会化」を理念としてスタートした介護保険ですが、18 年が経過し、社会の状況や高齢者をとりまく環境も大きく変わり、社会保障制度の在り方も「全世代型社会保障」へ転換する方向性が示されています。少子高齢社会において、「貧困」や「社会的孤立」という複合的な福祉ニーズに対する対応も求められます。

これまで地域と共に歩んできた法人の歴史を職員全体で振り返りながら、社会福祉法人としての展望を語り合い、より一層多くの方から信頼が寄せられる施設をめざし事業を進めます。

いのこの里事業計画は、以下の各計画で構成し立案します。

- | | | |
|---|---|----------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 利用者の援助に関する計画2. 地域福祉（在宅サービス）に関する計画3. 行事予定に関する計画4. 職員研修・育成に関する計画5. 職場環境の改善に関する計画6. 施設内整備、修繕に関する計画7. 施設運営管理に関する計画8. 部署運営計画 | } | <p>いのこの里全体事業計画 2018 年度予算</p> |
|---|---|----------------------------------|

□ 重点課題

- 2018（平成 30）年 4 月からの介護保険改定においては、その内容や利用料金等において利用者やご家族が不安にならないよう丁寧な説明を行います。
- 今回の報酬改定において、新たな加算が創設されたものについては、業務の見直しを図り、収入の確保を図るための方策を講じます。
- 吹田市亥の子谷地域保健福祉センターの受託にむけての準備を進めます。
- 職員が働き続けられる環境づくり、職員が働きがいを持てる職場づくりにむけての取り組みを行います。（休憩室の整備・資格取得支援・福祉用具の導入）
- 介護職員の専門性が発揮できるよう、効果的な人員配置を行い、業務の効率化を図ります。

□ 入居者の援助に関する計画 ～入居者の尊厳を守るケアの実現にむけて～

- ・「いのこの里職員の援助チェックポイント」を現場実践の指針とし、ICF の視点を取り入れ、尊厳を守るケアの実践を発展させます。

- ・個別ケア、認知症ケア、看取りケア、生活リハビリの実践では、ご本人やご家族と共に取り組むことを大切にし、より一層のケアの質の向上に努めます。
- ・健康管理、予防看護の視点を大切にされたケアを追及します。(口腔ケア、スキンケアの対策)
- ・毎日、安全に安心して、おいしく食べて頂くことができる食事を提供します。
- ・姿勢・活動ケア、おいしく食べることを目的とした「食事評価ツール S・E・A」の実践を推進し、食事介助技術の向上を図ります。
- ・リスクマネジメントの観点における“ひょっと視点”を職員間で共有し、職員全体の意識向上を図り、転倒・骨折ゼロにむけての取り組みを進めます。

□ 地域福祉（在宅サービス）に関わる計画 ～地域との連携、福祉力の向上を図る

- ・居宅サービス利用者が地域で暮らし続けることができるよう、部門間や関係機関等との連携の充実を図り、支援の質の向上に努めます。
- ・行政や地域関係団体と連携を図り、非常災害時における災害弱者の拠点としての福祉避難所としての機能強化や備蓄を進めます。
- ・生活困窮者に対する支援のネットワークを図るために、吹田しあわせネットワークと連携し、総合相談支援をはじめ、生活レスキュー事業や就労訓練事業（いわゆる中間的就労）の取り組みを進めます。
- ・ユニバーサルカフェ「いのこカフェタイム」の取り組みを地域の方々と共に進めていきます。
- ・地域の団体と連携を図り、施設の専門性を還元する取り組みを進めます。
(いのこの里育てる会と共同で地域のつどいを開催、介護職員初任者研修講座、認知症サポーター養成研修の実施等)

□ 行事予定に関する計画（年間予定表参照）

□ 職員研修・育成に関する計画 ～心豊かな専門性あふれる職員集団の育成～

- ・介護職員の喀痰吸引等研修（50時間研修）の受講を促進します。
- ・非正規職員のスキルアップを図るための研修体系を再整備し実施します。
- ・高齢者虐待防止、身体拘束廃止に関する研修に取り組みます。
- ・新人職員の育成カリキュラムを確立するため、チューター制度を継続して取り組みます。
- ・21老福連主催の職員研究交流集会 IN 熊本大会の成功にむけて、力を結集して取り組みます。
- ・法人内外の施設においての職員交換研修を積極的に進めます。

□ 職員の労働環境改善に関する計画 ～働き続けることができる職場環境づくり～

- ・前年度の引き続き介護職員処遇改善加算を活用し、職員の処遇改善に取り組みます。
- ・記録業務の省力化に取り組み、記録残業ゼロを目指します。
- ・職員が健康で働き続けることができるよう、腰痛予防やストレスマネジメントに取り組み、心身ともに健康な職場環境づくりに取り組みます。
- ・利用者、職員とも負担なく安全な介護が実施できるよう、ノーリフトポリシーの普及啓発と介護用リフトを積極的に導入する。

□ 施設内整備・修繕に関する計画

- ・全館共用トイレに前方ボードを設置します。
- ・手動式介護用ベット、マットレスの入替計画を作成し3年計画で更新します。
- ・3F 職員休憩室の拡充を行います。
- ・1F 機械浴槽、大型洗濯機、大型乾燥機の更新計画を策定します。
- ・2階フロア EV 前スペースの有効活用にむけての計画を検討します。(キッチンシンク等の設置など)

□ 運営管理に関する計画 ～民主的な施設運営の実践にむけて～

- ・法令等を正しく理解し、適切な記録と個人情報の管理に努めます。
- ・施設の情報公開をより一層進めるため、ホームページの充実を図ります。
- ・苦情内容とその対応について、HPや広報誌において積極的に公表します。
- ・感染症予防対応マニュアルの見直しを随時行い、「ファーストクリーニングコンセプト」方式を導入し、日常の清掃方法を見直し、より一層の感染症予防対策に努めます。
- ・いのこの里育てる会や 21 老福連、吹田社会保障推進協議会等と共同し社会福祉の充実を求める運動を推進します。

グループホームたんぽぽ デイサービスたんぽぽの広場

■ 利用者の援助に関する計画

- ・ 介護報酬の改定について、利用者、家族への周知を行います。
- ・ 副ホーム長の交代、1・2階主任の異動を含め、いのこの里との人事交流を行います。
- ・ 認知症ケアにかかる学習に努め、根拠をもった支援をすすめます。
- ・ 各フロアにパソコンを整備し、記録等の業務省力化に努めます。
- ・ デイサービスの定員増（30名）を行うとともに、理学療法士を配置し、機能訓練機能を充実させます。
- ・ 医療部門連携会議をはじめ、看護師、調理スタッフ等、関係機関との連携に努めます。
- ・ 季節に合わせた行事を実施します。
ピクニック（5月26日）長月会（9月15日）忘年会・もちつき（12月15日）

■ 地域福祉に関する計画

- ・ 「吹田市山田地域包括支援センター」にケアプランナーを配置し、地域のサポート支援強化をはかります。
- ・ 福祉避難所の実践的な訓練を行うとともに、必要な備品の整備をすすめます。
- ・ 地域の認知症ケアの拠点として、認知症サポーター養成講座、初任者研修の講師など役割を果たします。
- ・ 運営推進委員会を定期開催し、地域のニーズに積極的に応えられる運営に努めます。
- ・ 「ボランティア感謝の集い」（2019年3月9日）を実施し、ボランティアの交流とふりかえりを行います。
- ・ 地域行事に積極的に参加し、地域の関係団体との連携を図ります。
- ・ 育てる会の行事に参加し、地域福祉の増進に役割を果たします。
- ・ 家族会、労働組合とともに吹田市と懇談を行い、福祉行政のあり方を共に考えます。

■ 施設運営管理に関する計画

- ・ 法人設立50周年事業にとりくみ、職員、利用者、ご家族、地域に法人の理解を深めていただける機会を設けます。
- ・ 吹田市山田包括支援センターとデイとの連携をとり、サポート事業にとりくみます。
- ・ 外部評価を受審します。
- ・ たんぽぽ内全ての事業、及びスタッフが協力し、運営を支え合います。
- ・ 家族会で、フロア別懇談を行い、風通しのよい運営にいつそう努力します。
- ・ たんぽぽ、いのこの里、亥の子谷デイの合同会議に参加し、記録の統一や連携を行います。

■ 職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・ 多様な労働時間や内容を精査し、働きやすい環境整備に努めます。
- ・ 各種学習会について、法人と連携しつつすすめます。
- ・ 認知症介護実践者研修をはじめ、職員の資格取得の支援を行います。

- ・ 法人内外研修に積極的に参加・役割を果たします。
- ・ 職員互助会の運営を支援します。

■ 施設内の整備・修繕に関する計画

- ・ 各フロアにパソコンの設置、ネットワークを整備します。

吹田市立亥の子谷デイサービスセンター

(吹田市指定管理受託事業)

■利用者の自立支援に関する計画

- ・利用者の尊厳を守る自立支援の実践を発展させます。
- ・自発的・主体的に活動できる環境設定、備品整備に取り組みます。
- ・担当制による支援の充実を図り、多職種が連携したチームケアを実践します。
- ・ケアプランに基づき、生活機能・QOLを高め、望む暮らしに向けた支援を推進します。
- ・運動、栄養、口腔機能の状態把握に努めた健康管理を行います。
- ・安全でよりおいしい食事が提供できるよう、いのこの里厨房と連携します。4・10・12月にバイキングを実施します。
- ・「家族交流会」等を開催し、家族支援の取り組みを進めます。

■地域福祉に関わる計画

- ・亥の子谷コミュニティ協議会、地域関係機関の行事や取組みに協力し、地域福祉の発展を目指します。
- ・親子リズム体操や地域の子ども達との交流の場を設け、多世代交流の取り組みを進めます。
- ・大阪府社会福祉協議会が実施する生活レスキュー（社会貢献）事業の推進を図り、生活困窮者支援の役割（中間的就労を必要とする方々の受入体制整備など）を積極的に果たします。
- ・吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市特養連絡会デイサービス分科会、吹田市地域ケア会議等の運営に協力し、吹田市内の高齢者福祉のネットワーク作りに参画します。

■施設運営管理に関する計画

- ・2018年4月からの介護保険改定の内容や利用料金等の変更について、利用者やご家族へ丁寧な説明を行います。
- ・2019年4月からの指定管理受託に向けた準備を進めます。
- ・非常災害時及び防災に関するマニュアルの充実に努めます。
- ・避難訓練の実施を行うとともに、福祉避難所開設のための必要備品の整備を行います。
- ・感染症予防マニュアルの見直しを行います。
- ・居宅部門責任者会議に参加し、利用者支援の推進を図るとともに、地域の福祉ニーズを把握します。

■職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・会議開催、記録様式、ルーチンワークを見直し、業務の合理化に取り組みます。
- ・キャリアアップに向けた支援に努めます。
- ・事業推進に必要な知識・技術習得に向けた学習会の開催や外部研修派遣を計画的に実施し、職員の専門性向上を目指します。また、いのこの里、たんぼぼで開催される学習会にも意欲的に参加します。
- ・21老福連主催の研究交流集會に参加し、全国の実践を学びます。

■施設内の整備・修繕に関する計画

- ・機械浴室を個浴室へ変更するための検討及び改修工事を実施します。
- ・設備の老朽化に伴う修理・修繕について、吹田市と協議のうえ計画的に進めます。

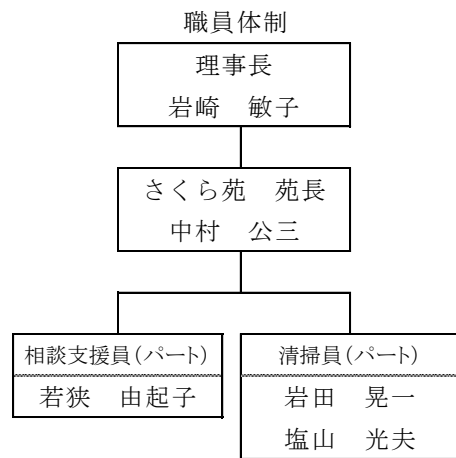
高齢者向け優良賃貸住宅 さくら苑

■入居者・自治会への支援に関する計画

- ・2か月に1回、自治会懇談会を開催し、入居者の声を運営に反映します。開催日は、5月24日、7月26日、9月27日、11月22日、1月24日、3月28日) また、自治会開催日の手作り食事会、自治会開催月以外に入居者の希望を聞き、お茶会や外食などを計画し懇談・交流を深めます。
- ・山三地区自治連合協議会定例会に出席し、地域との連携に努めます。
- ・行政手続き等の代行・支援(大阪府高優賃貸住宅家賃減額補助申請、インフルエンザ予防接種一部負担金、赤い羽根共同募金、吹田市社協賛助会費、日本赤十字社活動資金、吹田市交通災害共済等)の申請のとりまとめを行います。
- ・季節に合わせた行事を開催します。(予定)
お花見4月5日(火) 秋の日帰り旅行 11月8日(木)
忘年会 12月20日(木) 新年祝う会1月1日(火)
- ・買物・通院など希望により送迎支援を行ないます。

■地域福祉に関する計画

- ・さくらんぼ保育園との交流行事
 - お食事交流会・お茶会(毎月第4火曜日)
 - 平和の集い(8月下旬) ○ 運動会(10月)
- ・いのこの里(育てる会)
 - チャリティーバザー 6月10日(日)
 - チャリティー映画会 6月22日、11月16日
 - もちつき大会 12月23日(日)
- ・地域の行事
 - 山三地区福祉委員会ふれあい昼食会(年6回)
 - 山三夏まつり8月11日(土) ○ 山三地区防災訓練等への参加



■施設の運営管理に関する計画

- ・入居者の安否確認を毎朝(朝9:30~10:00)行ないます。また、いのこの里ケアプランセンターと協力し、入居者の相談・支援に努めます。
- ・夜間(19時~翌朝7時)は、オンコールによる緊急時の対応を行ないます。
- ・火災や災害時の避難訓練をさくらんぼ保育園と協力して行います。また、さくら苑独自で出火場所に見合った避難(一時避難場所)訓練を実施します。
- ・「こんにちはさくら苑です」を毎月発行します。いのこの里配食サービスの注文、配達を行います。
- ・電気使用量など、各種情報提供に努めます。(毎月)

■職員研修・育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・情報の提供・共有化を図り、快適な環境整備に努めます。
- ・毎月25日に仕事の進捗・予定等の確認を行ないます。

■施設内の整備・修繕に関する計画

- ・照明器具のLED改修工事、電気メーターの交換をさくらんぼ保育園と同様に行ないます。
- ・竹林の伐採(5月、11月)、エアコン・換気扇等の清掃(6月、12)、排水管の洗浄(3月)など環境整備・維持管理を行ないます。

吹田市山田地域包括支援センター

■ 利用者の援助に関する計画

- ・自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントを実施します。
- ・高齢者虐待の防止に向けた取組みを行うとともに、高齢者虐待の早期解消に向けた対応を組織的かつ継続的に行います。
- ・成年後見制度の紹介や消費者被害の防止を図り、高齢者の権利を守ります。

■ 地域福祉に関する計画

- ・社会福祉協議会など関係機関との連携を強めるとともに、計画的に地域のサロンや集いの場等へ出向き、地域のニーズや課題の把握に努めます。
- ・介護予防の普及啓発を行うとともに、住民主体の介護予防活動の支援を行います。
- ・認知症サポーター養成講座等を実施し、認知症についての啓発に努めます。
- ・在宅療養のための医療・介護支援についての情報提供に努めます。
- ・他地域包括と協働し、地域ケア会議やケアマネ懇談会の充実に努めます。
- ・地域密着型サービスの運営推進会議へ参加し、地域福祉の増進をともに考えます。
- ・地域住民が集える場所として、認知症カフェ等の開催を検討します。

■ 運営管理に関する計画

- ・4月から実施される改定介護保険制度を遵守するとともに、市の独自サービス（入浴サポートサービス）の情報提供に努めます。
- ・業務分掌を作成し、業務の効率化をめざします。
- ・当センターの周知を図るため、隔月に「山田地域包括だより」を作成します。
- ・グループホームたんぽぽ・デイサービスたんぽぽと協力し、運営を支え合います。
- ・たんぽぽ・いのこの里・亥の子谷デイ合同会議や行事へ参加し、法人間の連携に努めます。
- ・ケアプランナーを配置し、相談支援体制を強化するとともに、移転について検討します。

■ 職員研修、育成、働きやすい環境整備に関する計画

- ・情報の共有化を図るため、会議・研修後の報告や話し合いを大切にします。
- ・相談援助実践のスキルアップや各種制度の知識を深めるため、職員の資質向上をめざした取組みを実施します。
- ・21老福連主催の研究交流集会に参加し、全国の実践を学びます。
- ・定期的に管理者と職員の面談を実施します。

■ 施設内の整備に関する計画

- ・相談支援体制の強化（4→5人体制へ）にともない、事務所を再整備します。
- ・玄関情報閲覧を見やすいように改善します。

南保育園

吹田市で初めての公立保育園の民間移管を受け、2017年度に1年間をかけて丁寧に市職員、保護者と話し合いながら引継ぎを行いました。今年度よりこぼと会としての園運営が始まります。まずは、安全安心の保育の提供を行い、公立園の良さを引き継ぎながら、目の前のこどもたちの姿をしっかりと捉え、保護者との信頼関係を大切に最善の保育を職員一同でつくっていきます。また、吹田市の引継ぎ保育士の意見もしっかりと受け止めます。2019年度の第三者評価受審を見通して、各種マニュアルや日々の保育、行事の振り返りを丁寧にいきます。

■ 4月1日の入園状況 定員 112名 入園名予定 125名

0歳児：6名 1歳児：17名 2歳児：23名 3歳児：26名 4歳児 25名 5歳児：28名

■ 職員人事

入 職 新卒保育士3名・中途採用保育士4名

非常勤保育士8名 非常勤調理員1名 パート保育士4名 パート保育補助5名

異 動 こぼと 保育士3名 栄養士1名 看護師1名

さくら 保育士4名

さくらんぼ 保育士2名 栄養士2名

<地域に根ざして>

- ・こぼと会としては、初めて関わりを持つ地域です。公立園として築いてこられた地域の保育園の役割を継続し、地域に愛される保育園として、散歩時の挨拶等が気持ち良く行い、顔の見える関係づくりに努めます。

<施設の安全と環境改善のために>

- ・重大事故を起こさない為に「ヒヤ・ハット」報告を大切に、園全体でリスクマネジメントを行います。
- ・感染症予防と拡大を防ぐためのマニュアル充実と消毒の徹底を行い、園医と看護師による指導の下、正しい知識に基づく対応を行います。
- ・毎月実施する避難訓練について、年間計画に基づいて様々な場面を想定して行います。
- ・老朽化がすすんでいる園舎の改修計画を立案します。

<保護者とともに>

- ・保護者との連携・保護者支援について、より丁寧に対応できるように創意工夫を行います。また、保護者が安心して相談や意見が言えるように工夫を行っていきます。
- ・三者懇談会（保護者・園・市）の要望があれば丁寧に話し合いを行います。

<保育の質の向上のために>

- ・こぼと会から異動する職員、新採用職員、中途採用職員、公立アルバイト・パートから残る職員等が混在する職員集団での開園です。皆が心を寄せ合い、子どもの最善の利益を考え、話し合いを大切に保育をつくります。
- ・学びの機会を大切に、他市の民間移管園との交流を行います。
- ・職員が働き続けていくことで、保育のやりがいを実感できるように、管理職と職員の面談の機会を大切にします。